

いたってシンプルなもののばかりなんです。痛いとか苦しいとか不安とかですよ。そこから解放されるかどうかが大変なわけです。世間ではまだ、薬局は問題を解決するためのツールを得る場所と思っていますよね。地域活動というのは、まさにそれを打破するために出されたものです。

うちの薬局では患者さんのための力

薬を渡した後に関わる

——とはいえ、かかりつけ薬剤師の要件を満たすのは結構大変と聞きます。

かかりつけ薬剤師の要件についても最初はみんな、それを満たすとなると「ブラックな仕事になる」と言ったんですよ。なぜそういう発言が出るかということ、薬剤師の仕事を、薬を渡すまでの仕事と思っているからです。

例えばスタチンを飲んだら横紋筋融解症が起きることは、薬剤師はみんな知っているわけですよ。説明義務もありますから、「これは横紋筋融解症が起こる可能性があります」と言って渡します。でもそれだけだったら、怖がって飲まないかもしれないじゃないですか。これは対物業務ですよ。

一方、対人業務とはどういうことでしょうか。スタチンが処方されているということはその患者さんは脂質異常症で、脳梗塞や心筋梗塞の可能性が高まるわけですよ。だからスタチンを飲んでコレステロールを下げなくてはならない。その意義を患者さんが理解しているかどうかを確認し、十分に認識していないようだったら、分かりやすく説明しなくてはいいけません。

また、副作用として肝機能も悪くなるし、横紋筋の融解も起こる場合があります。そのサインとして、ミオグロビンが尿中に出で尿が赤くなるかもしれないし、筋崩壊が進んで体のあらゆるところが痛くなるかもしれません。それが起こるのは、服用開始後1週間か10日くらいでしょうか。そうしたらその頃に患者さんに電話して、その

フェを開いています。そこで薬剤師が地元の人と話していると、「へえ、薬剤師ってそういう職業なんだね」と感心されます。そこに来てくれた方は以後、問題を解決するために薬局に来るようになります。地域活動はとても効果的です。こういう活動の積み重ねで、国の大きな流れは変わっていくと思います。

ような症状が発現していないかどうかを確認してもいいかもしれませんね。これが対人業務ですよ。

薬を渡して薬剤師の仕事が終わるのではなく、渡した後もしっかり関わる。そのためには「なにかあればいつでも連絡して。薬局にもいるからいつでも来ていいよ」と伝えて、電話番号を渡さないといけませんし、薬局にいつもいなければいけません。対人業務と考えたら、あの要件は腑に落ちると思うんですよ。

大学での学びが対人業務に役立つ

——対人業務においてこそ、今私たちが習っていることが生きてくるのですよね。

そうですね。例えば、薬の血中濃度を有効域に保ち中毒域に到達しないように、また、いつ薬が標的に到達するのかを判断するために、薬物動態を学びますよね。薬剤師が医師に「やっぱりあの患者が吐いているのは、消化器症状ではなく副作用ですね。身長、体重、体表面積、腎機能から考えると薬の量はちょっと多いのではないのでしょうか」と言って、処方変更になったとします。提案した薬剤師はきっと、その後の経過が気になると思います。ご飯を食われているようだったら安心するでしょうし、2日経っても吐き気がおさまっていないのであれば、判断を間違えたかもしれないと悩むわけです。でも3日目で「食べた」と聞けば、「あーよかった。間違ってたな」と胸をなで下ろすことでしょう。このシーンはドラマチックですよ。そこに決断がありましたから。このシ

ーンは今君たちが学んでいることなしには起こりえません。

——薬剤師は患者の細かい状態を把握しなくてはなりませんね。

薬剤師がやることはたくさんあるんですよ。吸収、分布、代謝、排泄の全てを見ないといけないわけですよ。吸収はまずちゃんとお薬を飲んでいるかどうか。剤形も考えなくてはなりません。分布には栄養状態や脂肪の状態も関係してきます。代謝には薬物相互作用も遺伝子多型も関係します。排泄においては腎臓、肝臓の状態も当然把握する必要があります。そこまで知っていないと患者さんのことは見えてきません。

薬理学、薬物動態学、製剤学などはまさに薬を渡した後にしっかり関わる

バイタルサインをどう活用するか

——バイタルサインなども最近学びました。

バイタルサインも、なぜそれが何を分かった上で学ばなければ意味がありません。降圧薬が出ていたら血圧がちゃんと下がっているかを確認する。気管支拡張剤が出ていたら、気管支が拡張しているかを聴き取り、副作用として徐脈や頻脈が出ていないかを把握する。抗不整脈薬が出ていれば、ちゃんと効いているかどうかを確かめるために心音も聴くんですよ。医師や看護師が取るバイタルとは目的が違います。その上で、お互いの視点からその情報を共有したらいいんですよ。そ



狭間氏

ための科目とも言えますよね。患者さんが薬局に来た時に「その後どうですか?」といった言葉が不安の解消につながります。病院でも同じです。薬を渡した後、患者さんがどうなったのかを見るために病棟に薬剤師がいるんですよ。非常にシンプルなんです。薬を出した後を見るための勉強を君たちは今まさにしているわけです。

うしたら、患者のことがもっと分かってきますよね。

——以前、狭間先生の講演で、1年目の薬剤師には在宅に行ってもらっているとお聞きしました。

その通りです。どういう経緯でその薬が出て、今患者さんはどういう状況なのか、在宅に行くときよく分かります。バイタルサインを学んだ6年制卒の薬剤師は、自分の知識からちゃんと患者さんを見ることが出来ますからね。在宅に行くと当然、分からないことがあったり、決断を迫られたり、間違いも生じたりします。それを体験した薬剤師は、学会に出向いたりして自ら勉強するようになるでしょう。ここにはドラマがありますよね。

——セルフメディケーションの観点からも薬局でのトリアージやOTCの

(4ページへ続く)



必要な知識をさっと引き出す
国家試験直前のナビゲーター

薬ゼミの要点集

(2017年版) 薬ゼミの要点集 9冊セット： ネット価格(税込) 9,720円

国家試験直前の対策本・青本の中の最重要ポイントだけを
ギュッとコンパクトにまとめました。最後の総まとめに！

☎ 0120-77-8903 <http://yakuzemi.ac.jp>



おかげさまで当グループは、創立40周年を迎えました。
これもひとえに皆さまのご支援があつてこそと、職員一同、心より感謝申し上げます。

